

特別研修

月例研究会 議事録 (11 月)

2010 年度第 9 回

| | |
|--|-----------------------------|
| 報告題名 耕種と畜産を連係させた自然循環農業の実践方案に関する研究 | |
| 報告者 金 チョルスン (所属分野) 農業経営経済学 | 日時 11月18日 午後3時～ 場所 第2講義室 |
| 座長 堀 | 議事録担当者 水木 |
| 出席者 長谷部、安江、小山田、国井、米倉、冬木、伊藤、石井、阿部(美)、張、韓、Deffi、スチン、八木、宮本、佐々木(龍)、福田、水木、宮里、渡邊、易、威、王、北村、金(喆)、滝田、覃、中村、堀、山口、林、泉井、Intan、Sudirman、Lies、金(銀)、黄、小原、片山、佐々木(彩)、佐藤(良)、澤田、柴田、渋谷、千葉、藤、八鍬 | |
| 報告要旨 韓国では、耕種農業において近年、親環境農産物の生産は急速に増加しているにもかかわらず、畜産業においては、家畜糞尿の処理は不完全でその一部は海洋に捨てられている。拡大している親環境農業と環境問題の原因の一つである家畜糞尿を適切に連係させると、親環境農業と畜産業を同時に発展させることが出来るし、環境の保全や食品の安全などの効果もある。 このような状況下で、本研究では、一定の地域内で、供給が十分な家畜糞尿を適切に資源化して、親環境農業の拡大を図る同時に、その経営・経済性の分析を含めて、関連政策と農業・農村で実際、応用可能な自然循環農業の実践方案を考案する。 本報告では、その研究内容の全体的な流れと親環境農業の拡大、家畜糞尿の管理と処理、自然循環農業の概要、そして向後計画などに関して発表する | |

質疑・応答

山口：スライド 15 枚目の「認識の差」という箇所では親環境農業の側に否定的認識とあるがそこをもう少し説明してほしい。

金：親環境農業は耕種農業に含まれる。耕種農家も 70 年代までは家畜糞尿を有機資源として撒いていたが、その後糞尿の不適切な処理がメディアで問題として取り上げられている。そのために、親環境農業を行っている農家は家畜糞尿に対して否定的だということ。

山口：家畜糞尿自体に否定的というのではなく、今の処理方法に問題があるということか？

金：はい。家畜糞尿の基本的な考えは、堆肥に処理することで良い肥料になる。しかし、今は不適切な処理ということで問題になっている。また、工場型農場で排出された家畜糞尿は有機農業に使用できないという状況である。

長谷部：金さんの養分収支計算によると、現在の技術のもとで供給が過剰になっているということか？

金：私の試算内容は、まず農地に必要な各養分の所要量を標準施肥基準に基づいて米、野菜、果物など作物別に分けて計算し、最終的にそれを足し合わせて算出した。次に、韓国の農地に施用されている化学肥料、家畜糞尿、緑肥作物の使用量をそれぞれ窒素・リン・カリウムに換算し全体の供給量を算出した。緑肥作物については、今韓国では親環境農業のために導入されている。供給量に関してはこれら 3 つを考慮して試算した。結果は、窒素の養分収支は約 80% 供給超過であることが暫定的に試算された。データについては 2008 年のものを利用した。

長谷部：80% も多いのか？

金：そうです。今は必要な量より 78% オーバーしている状態です。先行研究では、家畜糞尿だけで養分収支をカバーできるという試算がある。

長谷部：これだけ過剰なら親環境農業を行うだけでは養分収支のバランスをとることは無理があるのではないか？

金：今、親環境農業の推進によって化学肥料の使用量が減っている。もし有機農業が 100% になれば、家畜糞尿のみになる。

堀：スライド 19 枚目の試算で窒素の超過量に関して、2004 年だけ小さいのはなぜ？金さんの試算値との差はどこから生じるのか？

金：2004 年の試算に際しては、耕種農業と畜産業を含めた様々な分野の研究者が参加していた。トップが畜産分野の人だったために、他の試算と試算方法が異なり結果に差が生じたと思われる。耕種農業の専門家が試算したならばこの結果は変わったのではないだろうか。私見ではあるが、2004 年の試算値は低すぎるもので実態を反映していないと思う。日本でもこのような研究がされていて、家畜糞尿だけで養分所要量をカバーできるという報告があった。研究者の間で多少の差がある。

伊藤：コメントで、これからまとめたらいいことが二つある。一つは、金さんが進める循環型農業の研究にとって、親環境農業の農産物の価格と消費が今後増えていかないと有機農業や無農薬農業の面積が増えないので、親環境農業の今後の需要の伸びについて整理すること。もう一つは、考え方によっては、韓国で伸びている畜産、豚や牛の頭数を減らしたらどうなるのか。その代わりに輸入が増えるということもありうる。豚や牛の輸入と、国内での生産とが代替する可能性を検討することが必要になる。今後これらをやったらどうかというコメントです。

金：耕種農業の立場では養豚を半分以下に減らすことが望ましい。しかし今韓国では、畜産業、特に豚肉は儲かるということで若者が多くなっている。このような現状を踏まえると、畜産の国内生産を減らすのは現時点では難しいと考えています。